

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和2年度分）

＜県の評価等＞

施設所管部名： 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 鈴鹿青少年の森（鈴鹿市住吉町地内）
指定管理者の名称等	三重県森林組合連合会 代表理事会長 上田和久（津市桜橋1丁目104番地）
指定の期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R1	R2	R1	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B			芝生・生垣管理に加え、枯れ木の伐採や湿地帯保全のための枯草除去など、植物管理を適切に行っている。また、利用者の意見を反映して安全対策に努めるなど、施設管理を適切に行っている。
2 施設の利用状況	B	B			感染防止対策を徹底しながらイベントを開催するとともにホームページ、鈴鹿市広報等で情報発信を行い、集客に努めた。
3 成果目標及びその実績	A	D		+	新型コロナウイルス感染症の影響により、成果目標に達していないものの、管理業務や施設利用を適切に実施し、利用の促進に努めた。

※「評価の項目」の
 県の評価： 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>（指定管理者の評価に対する県の評価）</p> <p>指定管理者においては、「管理業務の実施状況」及び「施設の利用状況」についてはB評価とし、「成果目標及びその実績」についてはD評価としている。</p> <p>「管理業務の実施状況」については、業務仕様書に基づき植物管理や施設管理を適切に行っており、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。</p> <p>「施設の利用状況」については、新型コロナウイルス感染症の影響による大型イベントの中止など、集客が困難な状況の中、感染防止対策を徹底しながらイベントを開催するとともに、ホームページ、鈴鹿市広報等で情報発信を行い、業務仕様書に基づき集客に努めたことから、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。</p> <p>「成果目標及びその実績」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、成果目標に達していないものの、管理業務や施設利用を適切に実施し、利用の促進に努めたことから、指定管理者の自己評価に比べて高いB相当と評価した。</p> <p>（今後の課題又は指定管理者への期待）</p> <p>利用者の安全・安心を確保するため、施設の老朽化に対する適切な修繕及び維持管理を期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により利用者の確保が困難な状況ではあるが、感染症拡大防止のための対策を実施しつつ、利用者拡大に向けた取組を期待する。</p>
--------	--

<指定管理者の評価・報告書（令和2年度分）>

指定管理者の名称：三重県森林組合連合会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 鈴鹿青少年の森事業の実施に関する業務

三重県森林組合連合会では、県内の森林組合などの協力を得て、利用者に公園に親しみを持ってもらい、森林・林業の役割をPRするためイベントを行うとともに、鈴鹿青少年センターや公園利用者の意見を聞きながら、円滑な公園運営を行った（注意喚起標識設置、トリムコースの凸凹補修）。

公園利用者の安全・安心が最重要であり、園路周辺の枯れ木、枯れ枝の除去を行うとともに、枯れ木のない景観を目標に管理を行った。具体的には、マツ枯れ防止剤の樹幹注入を平成25年度から計画的に実施しており、平成29年度までに546本に実施し、平成30年度からは2回目をを行い実施している。枯れマツ除去は、平成25年度から令和元年度までの処理数が2,379本となり、令和2年度には当年度枯れの松など9本の除去を行った。

また、景観対策として、ベンチの清掃、湿地帯の保全のため枯草除去等の活動を行った。

なお、芝生管理・生垣管理等のうち専門的技能を必要とするものについては、外部委託を行った。

「県営都市公園の利用に関するガイドライン」に従い新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、次の取組を行った。

湿地帯の保全活動については、公園利用者にボランティアとして参加していただき、住民参加の促進を図った。

施設の利用促進に向けた取組としては、ディスクゴルフ体験会、きのご観察会、寄せ植え講座、薬草薬樹を学ぼう、湿地帯植物観察会、親子木工教室、自然観察会（昆虫植物）、秋満喫ポイントラリー等といったイベントを開催した。

緊急時の対策として、職員の防災訓練を行った。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

（委託）

次の維持管理業務については、所定の手続きにより業務を選定し、委託により実施した。

自家用電気工作物保守管理、浄化槽保守点検及び清掃、給水施設（北エリア）清掃等業務、浄化槽水質検査、遊具点検（定期点検）業務、受付事務所設置業務、植物等の維持管理業務、トイレ清掃業務、廃棄物収集・運搬業務及び産業廃棄物処理業務委託、受付事務所防犯警備業務（修繕）

複合遊具中の引掛り形状改修、正面入口防護柵改修、水路流入口清掃、道伯池トイレ漏水修理、FRPベンチ応急補修2基及び撤去1基、木製ベンチ改修1基、浮島の転落防止チェーン設置、高圧ケーブル引込支柱支障木枝の除去、管理事務所エアコン修理、立て看板補修、グレーチング不具合補修、集水樹脇の陥没補修、水飲み場水栓の取り換え1基、受付事務所案内標識張替、トイレ浄化槽から公園下水への排水管つまり除去、法面土砂流れの土のうによる応急補修などを実施した。

③ 県施策への配慮に関する業務

・「男女用同参画社会の実現」として、園内従事者は、鈴鹿市を中心に年齢、性別等の差別なく雇用している。

・環境に配慮した取組として、伐倒作業の植物性チェーンオイル使用及びFSC認証のコピー用紙を使用した。

・親子木工教室に三重県産間伐材を使用した。

・電灯の点灯時間管理や、コピー用紙の裏面再利用などによりコスト節減に取り組んだ。

④ **情報公開・個人情報保護に関する業務**

- ・ 職員の個人情報保護研修会を行った。
- ・ 鈴鹿青少年の森の管理に関する情報公開実施要領及び文書整理保管要領に基づき対応した。
→令和2年度の開示請求なし。
- ・ 個人情報に記載されている申請書等→ロッカーに保存し、管理を徹底している。
- ・ 夜間の主要事務所の管理→警備会社に管理委託（事務所防犯警備業務）

⑤ **その他の業務**

- ・ 事故の発生及び報告については適切に対応した。
- ・ 巡回警備については、職員の巡回により対応した。
- ・ 簡易な修繕は業者に委託せず修繕を行った。（炊飯場炉・遊具等）
- ・ 植物の無断採取、指定された場所以外のテント等設置、他の利用者への迷惑な行為及び公園内での危険な行為は、その都度指導を行った。
- ・ 長寿命化計画策定業務に関するデータ入力を行った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に伴う施策の遂行として、次の取組を実施。
ポスター掲示、ホームページ掲載、遊具使用禁止（一時的）、炊飯場及びキャンプ場の利用制限措置、職員のマスク着用徹底等

(2) **施設の利用状況**

<目標> 年間公園利用者数 28万人

<実績> 年間公園利用者数 200,511人(前年度:317,486人 対比:63.2%)

(内訳) 巡回による把握人数:181,856人(前年度:274,055人 対比:66.4%)

炊飯場等利用人数: 1,810人(前年度:16,074人 対比:11.3%)

自主事業参加人数: 412人(前年度: 794人 対比:51.9%)

その他施設利用人数: 16,433人(前年度:26,563人 対比:61.9%)

【施設利用申請件数】

炊飯場→126件 多目的広場→202件 中央広場→4件 芝生広場→17件 トリムコース→347件 園内利用→57件 ディスクゴルフ→9件 キャンプ→1件

2 **利用料金の収入の実績**

「競技会、展示会、集会その他これらに類する催しを行うもの」1件22,200円があった。

3 **管理業務に関する経費の収支状況**

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R1	R2		R1	R2
指定管理料	44,018,000	44,018,000	事業費	29,304,855	27,776,184
利用料金収入	19,149	22,200	管理費	15,965,787	14,997,638
その他の収入	108,000	110,000	その他の支出	0	0
合計(a)	44,145,149	44,150,200	合計(b)	45,270,642	42,773,822
収支差額 (a)-(b)	△1,125,493	1,376,378	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	年間公園利用者数 28万人
成果目標に対する実績	年間公園利用者数 200,511人
今後の取組方針	「県営都市公園の利用に関するガイドライン」に従い新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、適正に管理し、安全面、景観面でも満足できる公園としていく。 当公園が有する施設（樹木・草花を含む）を有効活用することにより、県民サービスの向上に努めると共に、青少年センター等と連携を図り、スムーズな運営管理に努める。 利用者のご意見要望等を運営に反映し、利用者増につながる取組を行っていく。

5 管理業務に関する自己評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R1	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B	・「県営都市公園の利用に関するガイドライン」を遵守し、利用者優先の維持管理を行い、特に問題等は発生しなかった。 ・管理車両の園内巡視のための走行速度を時速10km程度とし、園路利用者を追い越して走行することのないよう、職員に周知した。 ・枯れ木及び枯損木の伐採、園路上の枯れ枝の除去等を行い、公園利用者の安全確保を優先した管理を行った。
2 施設の利用状況	B	B	・施設の利用申込み状況をホームページに掲載するほか、鈴鹿市広報、公園内の掲示板等による各種情報の提供を行い、利用者の利便性を高めた。
3 成果目標及びその実績	A	D	・令和2年度の年間公園利用者数は200,511人となり、成果目標の280,000人に対し、71.6%の達成率となった。

※ 評価の項目 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。

「1」の評価 : 「B」 → 業務計画を順調に実施している。

「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。

「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※ 評価の項目 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。

「2」「3」の評価 : 「B」 → 当初の目標を達成している。

「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。

「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>●上記の評価に至った理由</p> <p>受付業務、維持管理業務ともに、「県営都市公園の利用に関するガイドライン」に従い新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、親切、丁寧に対応をした。</p> <p>危機管理については、月1回の全体会議等で職員の認識を高め、訓練を行うなど、意識の向上に努めた。</p> <p>利用者数については、昨年度から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自主事業については、大型の自主事業イベントを中止したことから、自主事業参加者は412人に留まった。園内施設の利用に関しては炊飯場を含め、企業や学校等の主催のものが行われなかったため、炊飯場利用人数1,810人前年度比11.3%、その他施設利用人数16,433人前年度比61.9%となり、巡回による把握人数も181,856人であったため、利用人数は大幅に減少し200,511人となり目標人数の28万人の71.6%に留まった。</p> <p>利用者意見を反映し、成果目標を達成できるような施策を考案して実行したい。</p> <p>●残されている課題</p> <p>施設全体が老朽化している中、安全を最重要課題として捉え、利用者の施設利用の利便性を確保し、植物管理に引き続き取組むことにより景観を保全し、さらなる県民サービスの向上をめざし、利用促進を図っていく。</p>
--------	---